



# オアシス

文責：副学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年10月21日発行 第30号

10月も半ばを過ぎると寒さも増し、着るものも1枚1枚と重ね着するようになりました。相変わらずコロナ禍の影響が続き、行動範囲も制限され自宅にこもることが多くなっています。そのお陰か部屋の片づけや趣味の範囲も広がり、インドアの楽しみ方も増しているようです。

## ◎ 出雲 Jr.フィルコンサートが開催！

今年度、本アカデミーにとって最初のコンサートとなる「第8回プロムナードコンサート」が大社文化プレイスうらら館において開催されました。コロナ感染防止対策で、講座を始めすべての事業が停止されていましたが、様々な困難を乗り越え本番を迎えることができたことはとても感激的でした。全体合わせができない中、それでもコンサート開催に向けて個人練習や少人数での合わせを繰り返し、コツコツと積み上げてきたものが見事に咲き誇り、聴いているものを感動させてくれました。

プログラムは、オープニングの「トロンボーン・アンサンブル」から始まり、金管楽器とは思えないほどの柔らかな音色で、息もピッタリのアンサンブルに魅了されました。

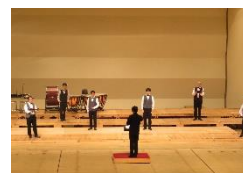
ジュニアコーラスは「男声合唱」を披露できる機会が少ない中、6人で会場いっぱい響かせ、声質のダイナミックな響きに驚きを隠せませんでした。そして、同声合唱の三部の響きや混声合唱の四部合唱では、詩の特性を感じながらメロディーに気持ちを乗せ、指揮者の要求する表現を受け止めた素晴らしい合唱を披露してくれました。個人的な感想ですが私は「春に」がお気に入りの合唱曲で、歌詞と曲がこれほどマッチングする合唱曲はそうないと思っています。「この気持ちは何だろー…」とくるといつもぐっと来てしまいます…。

ジュニアオーケストラは、ビゼー曲、ベートーヴェン曲、シベリウス曲の3曲を披露しました。いつも思うのですが、オーケストラは弦楽器に管・打楽器という編成で独特な響きが魅力的です。本アカデミーJr.オーケストラはその響きを忠実に再現されているといえます。特に今年はベートーヴェンの生誕250周年の記念の年にあたり、本Jr.オケも交響曲第8番第1楽章に挑戦してくれました。ベートーヴェンの思想やこだわりが沢山込められている交響曲は、演奏するメンバーも大曲の醍醐味を味わったことと思います。

プログラムは休憩なしで1時間20分のコンパクトなコンサートでしたが、内容の濃い上質な音楽に、しかも久々の生の演奏ということもあり、会場の皆さんも満足されている様子でした。

## ◎ 第2回フレコンサート開催される！

先日、「LPレコードコンサート&音楽サロン」がプレコンサートとして開催されました。2回目の今



裏面へ

回は、ベートーヴェンの交響曲から「第3番」《英雄》をメインに鑑賞しました。この曲が作曲された当時のヨーロッパは政情不安が高まっていた時期であり、ナポレオンの出現が作曲家にも大きく影響していたといえます。「英雄」の副題がついているのも納得できます。しかし、ナポレオンに献呈しようとしていたベートーヴェンは、ナポレオン自らが皇帝になろうとした行動に激怒し、楽譜のタイトルページを破り捨てたというエピソードは有名な史実です。「交響曲第3番」の1楽章で英雄が堂々と登場したにもかかわらず、2楽章ではいきなり葬送行進曲となっているところにベートーヴェンの政治思想に対する価値観が現れているような気がしました。ベートーヴェンの交響曲は9曲あります。それぞれが独創的で緻密に構想が練られた完成度の高い作品となっていることが、聴く側の私たちにもその都度、新たな発見や感動を与え続けているのだと気付かされます。



第2部では、レコード会社<東芝EMI>に元勤務されていた“牛尾尚義”氏が、LPレコードの魅力を一懇切丁寧に語っていただきました。レコードはより自然に近く深みのある音が再生できるのに対しデジタル録音されたコンパクトディスク（CD）は、シャープで切れ味はいいものの、どこか金属音的で薄く、聴いているうちに耳が疲れてくる特徴があることを、実際に聴き比べながら説明していただきました。まさに「目から鱗が落ちる」とはこういう事かと驚きました。しかし、レコードには高度な技術力で録音されていることが理解できましたが、それを再生するオーディオ機器がそれなりの機器でなければ再現できない事にも気付かされ、オーディオの世界の奥深さを知る機会ともなりました。

今回、この高級機器を提供してくださった「オーディオショップ フクダ」様には、最高の環境を整えていただいたことに恐縮すると同時に感謝申し上げます。

今回は、11月11日、交響曲第5番を第3回プレコンサートとして開催します。12月の一般公開の前に、是非、本アカデミー関係者の皆様にもLPレコードの魅力を知っていただきたく、多くの方のご参加をお待ちしております。

### ◎ 校歌がオーケストラのメロディーに乗って！

新型コロナウイルスの感染症による社会生活が滞る中、音楽活動を実施する本アカデミー事業もほとんどが中止に追い込まれました。そのような環境下で、音楽を通して子どもたちがより良い音楽に触れることができる環境整備に資するため、市内小・中学校の校歌のオーケストラ演奏をCD（歌詞入り及び歌詞なしの2種類）に録音し、この度、教育委員会で贈呈式が行われました。贈呈式では教育長を始め、教育部長、教育次長他、多くのマスコミ関係者の参加をいただくことができました。教育長様の挨拶の「オーケストラで校歌を演奏されることはとても珍しい取組であり、実際に聴いてみると、豊かな表現力と学校周辺の環境や自然の様子が手にとるようによくわかることに驚きました。」というコメントからも、関心の高さがうかがえました。また、学校周辺の環境については、事前に中井芸術監督自らが現地取材をされ、音楽表現に生かされていることが大きく影響していることと思います。



今回、校歌をオーケストラで演奏することについては、コロナ禍における副産物であったかもしれませんが、音楽を通して出雲市の活性化を目指す取り組みの一環として、市内の学校現場で役立てていただくことになり、本アカデミーにとっても大変有意義な事業となりました。

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】